

# 初日に輝く海

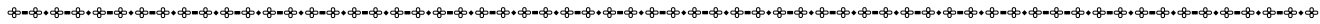


紺野 勝司 (写真部)

# はなやま

発行  
社団法人  
宮城県芸術協会

(郵便番号 980-0802)  
仙台市青葉区二日町 16-1  
二日町東急ビル 5-B  
電話 (022) 261-7055  
FAX (022) 214-5184  
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp  
発行者 早坂 貞彦



新春を迎え皆様のご健勝、ご活躍をご祈念申し上げます。昨年は震災後の困難な状況の中、芸術祭をはじめ諸事業にご尽力賜わり、おかげ様で事業内容、参加人数共に例年を凌ぐ結果となりました。深く感謝申し上げます。

二〇一三年。

今年、第五十回芸術祭を迎え、加えて四月から公益法人移行の記念すべき佳き年を迎えました。

公益法人は社会的に信頼される法人であると共に、会員各位が本県の芸術を広める担い手である事が求められます。

昨年の事業の特色を列挙致します。一、意欲的部門間交流。二、絵画、彫刻、写真部で新たに実施の公募展。三、三曲、書道、洋楽、文芸部で

## 記念すべき佳き年

=年頭のあいさつ=  
理事長 早坂 貞彦



の地域活動やアウトリーチ(出前授業)。四、芸術の力により震災で萎えた心に活力を注いだ事。つまり、各部の公演、展示やチャリティー。

韓国、台湾、中国、北海道東北芸文協、兵庫からの支援もいただきました。これらは、「開かれた芸協」というこれからの芸協の道を示す大切な事柄だったと思います。

目下、理事会や委員会を持ち、新法人の定款と、それが円滑に運用される諸細則の審議を重ねると共に、来年の創立五十年に向けて鋭意努力を致しております。

未来につながる魅力ある芸協を目指しての今年の皆様のご協力を切にお願いし、年頭のごあいさつとさせていただきます。

# 「公益社団」への移行決定

## 四月一日に登記手続き

当協会が昨年八月末に宮城県知事あてに提出していた公益社団法人移行認定申請書について、十二月十二日に宮城県公益認定等委員会で審議が行われ、委員長から知事に対して「法律に規定する認定の基準に適合すると認めるのが相当」とする答申があった。

この結果、懸案であった公益社団法人への移行が正式に認められたことになる。

三月下旬の移行認定書の交付を待って、四月一日に法務局に公益社団法人設立の登記を行うことにより、晴れて公益社団法人への移行が実現し、「公益社団法人宮城県芸

文協会」として新しいスタートが切られることになった。

## 諸規程の整備も進む

### 準備委で順次原案づくり

当協会の公益社団法人移行の決定を受けて、公益社団法人移行準備委員会で、新定款に適合する諸規程の整備が急ピッチで進められている。

現在、当協会には法人運営規程をはじめ、文書取扱規程、

規程を七つの細則があるが、定款が変更されたことにより、これらの見直しが迫られている。また、公益社団法人では、より透明性の高い法人運営が求められることから、

組織や運営に関わる新たな規定の制定も必要となる。なかでも法人運営規程には、理事の選出方法や部長会議の設置などいくつかの重要事項が含まれているため、特に慎重な検討が求められている。

準備委員会では、必要性の高いものから順次原案を作成し、定款に基づき理事会の議決を経て諸規程を定め、四月からの公益社団法人移行に備えることにしている。

## 震災復興支援事業

### 五つの部門で継続実施

本年度は東日本大震災からの復興元年。当協会では本年度も芸術祭を大震災復興支援事業と位置付け、写真、彫刻、

文芸の各部門で支援活動を展開した。また音楽部と書道部は、芸術祭とは別に一般事業としての支援事業を行った。

写真部は、昨年度に引き続き芸術祭写真展会場で、会員が各自の作品をもとに制作して持ち寄ったポストカードの

写真部は、昨年度に引き続き芸術祭写真展会場で、会員が各自の作品をもとに制作して持ち寄ったポストカードの

チャリティー販売を実施。売上金十八万五千円を東日本大震災で甚大な被害を受けたリアス・アーク美術館に寄贈した。

音楽部（洋楽）は、十一月二十六日に宮城野区文化センターで、会員による震災復興支援チャリティーコンサートを開催した。ほぼ満席の入場者があり、売上金三十二万五千五百円をすべて震災遺児を支援している「あしなが育英会」に寄付した。

彫刻部は、芸術祭の彫刻展会場で、全展示作品を一枚の写真に仕立てたカタログを販

書道部は、昨年度からの継続として、津波で被災した学

校で講師派遣事業（書道部）ある小中高等学校の児童生徒に書写書道教育の普及と奨励を目的に講師派遣事業に着手した。これは公益法人化を視野に入れ、宮城県教育委員会、

九校で講師派遣事業（書道部）ある小中高等学校の児童生徒に書写書道教育の普及と奨励を目的に講師派遣事業に着手した。これは公益法人化を視野に入れ、宮城県教育委員会、

仙台市教育委員会と連携した事業である。初年度の今年、小中学校九校で書道の専門的な見地からの指導を行った。教科書教材や宮城県小中学校児童生徒書きぞめ展の課題へ取り組む児童生徒や教育現場の先生方から好評を得た。

校に校名板や校歌額を寄贈する事業を実施した。対象は小学校一校、高校二校で、材料費は芸術協会が負担し、揮毫には書道部運営委員があつた。各学校からは、「お陰様で自分たちの学校を強く意識できるようになった」などの感謝の言葉が寄せられている。



気仙沼向洋高校に寄贈した校名板と校歌額



# 第49回芸術祭が閉幕 併催の公募展に手応え



閉会式で挨拶を述べる早坂会長

平成二十四年九月二十八日に開幕した第四十九回芸術祭の閉会式が、十一月二十九日午後六時よりホテルメトロポリタン仙台で行われた。芸術祭会長、早坂貞彦芸協

理事長の挨拶で閉会式第一部の表彰式が始められた。早坂会長は「昨年の災禍復興支援に芸術祭を通し活動したが、逆に被災者に励まされた。困難な時ほど芸術が必要とされ

る重要性を痛感した」と強調。「また、公益法人移行に伴い、新人、若者に向けて写真、絵画、彫刻の公募展を併催したが、予想以上の手応えがあった。来年は芸術祭が第五十回を迎えるにあたり、本会員にはさらなる努力を望む」と述べた。

次に、名誉会長村井嘉浩知事の祝辞（代読）があり、主催七団体の代表者が紹介され

引き続き各賞受賞者の表彰が行われた。芸術祭受賞者が六十七人のうち式典参加者が六十四人にそれぞれ賞状と記念品が贈られた。

また、宮城県芸術協会功績者二十六人、地域文化功績者二十六人、地域文化功績者二人、文化科学大臣表彰一人、文化の日表彰（教育文化功労）九人に表彰状と記念品がそれぞれ授与された。

## 功績者 26 人を表彰

閉会式では次のとおり、華道部十人、音楽部六人、茶道部十人の会員が芸術協会功績者として表彰された。

〔華道部〕（小原流）草刈光露（古流松應会）佐藤理智、平澤

理翠（古流松藤会）佐藤理依（清泉古流）油谷一慶（草月流）丹野霞園（東州流）音羽一希、升澤一節（道風流）有賀華醇（本原遠州流）平間一季

〔音楽部〕（洋楽）高橋五郎、田家千恵子（長唄）杵屋和加敏、藤、稀音家六伎世、杵家七可佐、川静山

〔茶道部〕（表千家）佐々木宗美（裏千家）菅原宗智、徳力宗琴（三彩流）坂本香苑（宗偏流）高橋宗和（織田流）菅野南久、瀨川南陽、村岡南玲（玉川遠州流）渋谷森恵（文雅静庵流）有

昌孝仙台市市民局長の挨拶で始まり、各部門を超えた歓談

### 第49回宮城県芸術祭来場者数

事業名	入場者数
開場式	65
絵画展	10,654
写真展	2,339
華道展	3,266
彫刻展	2,601
書道展	4,757
工芸展	1,814
文学散歩	29
茶会	3,367
長唄演奏会	201
音楽会	712
文芸祭	87
工芸展美里展	280
写真展村田展	442
絵画・書道展大崎田尻展	810
閉会式	307

### 参加行事

事業名	入場者数
第56回仙台三曲協会定期演奏会	516
第43回洋舞公演	825

## 芸術祭実行委員会を開催

十二月七日、芸術祭実行委員会が開かれ、芸術祭の運営についての反省点などが話し合われた。来年度の課題として公募展を芸術祭の一環として行いたい、巡回展はもっと活性化が必要がある、などの意見が出された。また、来年度は第五十回という節目の芸術祭になるので、その対応でも活発な討議が行われた。

## 【訂正】「はなやま194号」

三面の工芸部研究会の記事及び写真説明中、「高橋威仙常任理事」とあるのは、「高橋威仙副理事長」の誤りでした。

第49回宮城県芸術祭受賞者

	部 門	作 品 名	氏 名
宮城県芸術祭賞	絵画部(日本画)	望	三浦孝(大崎市)
	絵画部(洋画)	消えゆく遺産(黒川油田採油設備)	松永弘(大和町)
	写真部	残像	渡辺義昭(仙台市)
	彫刻部	刻の景	阿部弘子(仙台市)
	書道部	一握の砂(近代詩文)	石上千睦(仙台市)
	工芸部	自然の恵み(ぜんまい紬)(染織)	伊藤あき(仙台市)
宮城県知事賞	文芸部	雪虫(短歌)	遠藤正子(仙台市)
	絵画部(日本画)	環る	新藤圭一(仙台市)
	絵画部(洋画)	先週の他人図	高松和樹(仙台市)
	写真部	乱舞	関敏彦(登米市)
	彫刻部	再生(Ⅱ)	亀井陽逸(登米市)
	書道部	花すすき(かな)	岩澤芳華(仙台市)
	工芸部	鉢(陶芸)	市岡泰(利府町)
	文芸部	半分はもとのまま(詩)	千田基嗣(気仙沼市)
	文芸部	出口はどこ(短歌)	丹治久恵(利府町)
	文芸部	遠青嶺(俳句)	小林里子(富谷町)
仙台市長賞	文芸部	赤チン(川柳)	中條節子(仙台市)
	文芸部	土のうめき(その四)(小説)	安久澤連(柴田町)
河北新報社賞	絵画部(日本画)	夏模様の	岩渕仁子(仙台市)
	絵画部(洋画)	雨あがる	其田章(仙台市)
	書道部	杜甫詩(漢字)	無着孝章(名取市)
	絵画部(日本画)	M y r o o m	須藤君子(仙台市)
	絵画部(洋画)	地形広場	其田マサ(仙台市)
	写真部	再生の祈り	紺野勝司(気仙沼市)
宮城県教育委員会教育長賞	彫刻部	望郷	赤井靖武(塩竈市)
	書道部	無名天地之始(篆刻)	森慶(仙台市)
	工芸部	象嵌草文金彩花器(陶芸)	島見美由紀(岩沼市)
	文芸部	雪遊び(俳句)	関根かな(仙台市)
	絵画部(洋画)	静物	清野洋子(岩沼市)
	書道部	起源(墨象)	佐々木青霞(美里町)
宮城県教育委員会教育長新人賞	工芸部	2012花の宴・紅白(木竹芸)	林恵美子(七ヶ浜町)
	絵画部(日本画)	子供が帰った後からは	及川尚子(仙台市)
	絵画部(洋画)	恋のはじまり	山形牧子(登米市)
	書道部	梁嶽頹峻(篆刻)	佐藤吏陵(仙台市)
	書道部	無(墨象)	阿部市子(石巻市)
仙台市教育委員会教育長賞	工芸部	絢(あや)(皮革)	佐藤美喜(仙台市)
	絵画部(洋画)	ELEMENTS - 宙象 - 2012	齋藤正和(仙台市)
宮城県議会議長賞	書道部	餓(少字)	山下京子(仙台市)
	絵画部(洋画)	刻はめぐる	堀井明美(仙台市)
仙台市議会議長賞	書道部	田中冬二の詩(近代詩文)	佐々木一峰(大崎市)
	絵画部(洋画)	水明	柴田治(仙台市)
公益財団法人宮城県文化振興財団賞	書道部	清澄(墨象)	後藤法明(栗原市)
	絵画部(洋画)	刻 - 0 1 2 G	枅澤怜(仙台市)
	写真部	もつと光りを	尾形昌文(仙台市)
	書道部	桜月夜(かな)	金田美安子(仙台市)
	書道部	翁方綱詩二首(漢字)	佐々木芝翠(仙台市)
	書道部	と・お・く(墨象)	西館四草(仙台市)
	工芸部	雲渡る(染織)	佐藤陽子(塩竈市)
公益財団法人カメイ社会教育振興財団賞	文芸部	結跏趺坐(川柳)	浜田則子(仙台市)
	絵画部(日本画)	秋色のしおり	橋本道代(仙台市)
菅野美術館賞	絵画部(洋画)	A S U R A	坂本和之(大崎市)
	彫刻部	つむぎ	板持彰(仙台市)
門伝勝太郎賞	絵画部(洋画)	こけし・ふるさとに立つ No2	清野榮彌(岩沼市)
	書道部	悲歌(漢字)	熊谷鳳苑(石巻市)
宮城県芸術祭奨励賞	絵画部(洋画)	u n - t i t l e d	本田崇(大河原町)
	絵画部(洋画)	静	小川和子(仙台市)
	絵画部(洋画)	L a n d s c a p e	町田美野(名取市)
	写真部	溪流の輝き	小野寺亨(栗原市)
	写真部	黄昏どき	影山英雄(多賀城市)
	書道部	奥坂まやの句(近代詩文)	阿部のぶ子(塩竈市)
	書道部	紅蓮(少字)	丸藤紫苑(仙台市)
	書道部	李庭詩 獨遊清窟(漢字)	鈴木霽月(仙台市)
	書道部	種田山頭火の句(近代詩文)	高井俊篁(仙台市)
	書道部	曲不藏直・星斗呈祥(篆刻)	高野芳月(多賀城市)
	書道部	佐久間晟の歌(近代詩文)	柳由美子(仙台市)
	文芸部	白き砂浜(短歌)	吉田芳子(仙台市)
	工芸部	黒釉山吹文大皿(陶芸)	中山晴代(仙台市)

# 写真部佐々木隆二氏が受賞 地域文化功労者大臣表彰

平成二十四年度の地域文化功労者文部科学大臣表彰で、当協会からは写真部の佐々木隆二氏が受賞した。

佐々木氏は昭和四十三年、河北観光写真コンクールで特選を受賞。四十四年から六年連続で各県知事賞などを獲得した。

二科会写真部でも活躍。二

## 九氏に文化の日表彰

平成二十四年度の文化の日表彰（教育文化功労）に、当協会から次の九氏が選ばれた。

- 十一月一日、青葉区の東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）で行われた表彰式では、村井嘉浩知事から表彰状と記念品が授与された。
- 伊達忠敏、徳山高明（文芸部・短歌）牛島富美二（文芸部・小説）東城照夫（絵画部・洋画）河田勉成（工芸部・陶芸）高橋厚子（舞踊部）渡部ジュデイス、石川浩（音楽部・洋楽）佐藤淳一（彫刻部）



最後を締めくくった「ときめき賛歌」の大合唱

## 芸術祭音楽会 過去最高の入場者

第四十九回芸術祭の音楽会が十月三十一日、仙台市青年文化センターで開かれた。

名曲アルバムⅡ（サブタイトル「ルードビュッシーの生誕150年を祝して」）ではピアノ曲が採り上げられた。音楽部運営委員の渡部勝彦会員のお話と進行に

## 最後に「ときめき賛歌」の大合唱

—ミュージックフェスタinTOME—

みやぎミュージックフェスタ inTOME が十二月九日、当協会と登米市文化振興財団、宮城県文化振興財団の共催により、登米市登米祝祭

劇場大ホールで、登米市合唱祭と併催のもと開かれた。

第一部の登米市合唱祭に引き続き、第二部のミュージックフェスタでは、初めに佐沼保育園児による歌の発表、米谷小学校マンドリンクラブによるマンドリン合奏があり、次に芸協音楽部会員のピアノ独奏、ソプラノ独唱、マリンバ独奏などが続き、四百人の来場者を魅了した。

最後に、出演者合計百名で、登米市民の作詞・作曲、八島秀芸協会編曲による「ときめき賛歌」が披露され、圧巻の合唱と共に閉幕した。

より、前半は昨年の第三十二回ピアノコンクール特別賞受賞記念演奏が高瀬彩音、永倉葉弥、峯佳織の三氏によって行われ、後半はドビュッシーのピアノ曲が十名の出演者によって八曲演奏された。

入場者数は過去最高の七百十二名を数え、東日本復興支援と位置付けた今年の芸術祭を盛会裏に締めくくった。

## ピアノコンクール

本選は3月17日

当協会主催第三十三回音楽コンクール（ピアノ部門）の予選は二月十七日、本選は三月十七日に、それぞれ仙台市戦災復興記念館で開かれる。宮城県在住の小・中学生が対象で、予選、本選の審査を経て、各級ごとに最優秀賞、優秀賞、奨励賞、作曲者賞などが贈られる。申し込みは一月十五日に締め切られ、参加者は九十九名となった。

## 芸術祭受賞者など

### による美術展開催

第四十九回芸術祭の受賞者・賞候補者による美術展



芸術祭受賞者などによる美術展（LBギャラリー）

（昨年度までは「宮城の気鋭展」として開催）が、今年も仙台市青葉区大町のLBギャラリーを会場に、一月十日、十九日に開催された。本年の出品者は、日本画・洋画の両部門から合わせて二十八名となり、力作揃いの作品が来場者から好評を博した。期間内来場者数は六百二十九名で、多くの来場者に恵まれた。

## 長唄演奏会も盛況

芸術祭長唄演奏会は、十月二十一日、仙台市民会館小ホールで開かれた。来場者は二百人を超え、二十歳代の若い女性の姿もみられた。



宮城県芸術協会の本年度の海外研修旅行が台湾と決まり、十一月十一日(日)から四泊五日の日程で、仙台空港を出発した。一行は二十四名。台北に一泊して、新幹線で高雄へ。高雄一泊の翌日は台南を経て日月潭に一泊。さらに北上して鶯歌から再び台北の同じホテルに戻り、十五日予定通りに帰国した。旅行中雨傘の必要はなく、ひどく暑苦しい思いもせず、まずは快適で内容の濃い楽しい旅を終えた。

さて、世の中には思いもかけない展開があるものである。「万葉集と台湾の歌人たち」(鈴木昱子「群山第六十七巻第十号

取」と「東日本大震災に寄せて」という台湾歌壇五十二名の短歌に心を動かされた菊田翠谷先生が、この方々の作品を書いて呈上したいと申し出られた。そしてそれらをお渡しすべく、代表蔡焜燦先生、事務局長

### 研修旅行 台湾の自然と文化を訪ねて

## 旅を彩る歌人たちとの交流

黄教子先生と、石巻の旧師夫人を案じた歌が新聞に取り上げられ、夫人と連絡がついて評判になった林蘇綿氏の三人が、台北の国賓ホテルに来て下さることになった。東京の台湾協会の根拠地になった。菊田先生のご尽力による。菊田先生は右の三人の作品だけでなく、あとの四十九人の作品をも夜に日を書き、出版に間に合わせなされた(第七面参照)。

一日目の早朝、初対面のご挨拶もそこそこに、菊田先生の渾身の力作のご披露、進呈。『文芸年鑑』の最新号と宮城県歌人協会からの合同歌集『東日本大震災の歌』(二七七七名収、平成二十四・三十一刊)の贈呈。蔡先生の「ササカマではないのですか」に笑わされながら、ロビーの大壁画を背に記念撮影。写真は佐々木光一先生が担当された。

この日は日本人慰霊祭に出られると、お別れとなる。莫大な義援金、そして東日本大震災を案じて短歌を詠んで下さる台湾の方々のお心は真実ありがたく、感謝し尽くせぬところ。短い時間ではあったが、この日台交流が、私どもの旅のはじまりを豊かに彩ったことを特記したい。

### 文芸部 (短歌) 原田 夏子

このあと、期待の故宫博物館を見学。引率された少年少女たちでどの部屋もあふれ、賑やかである。その隙を縫うように、ガイドの周氏は至宝中の至宝の前に導いて説明してくれた。戦乱つづきで幾つもの王朝が交代した中国において、よくぞ損なわれなかったと思われるものばかり。このような歴代の至宝名品の数々を一日や二日で見てもわるのは不可能とて、諦めて出

る。この日の昼食は市内の「鼎泰豊」で、蒸し立てあつあつの小籠包に舌鼓を打つ。台湾の食事はどこもおいしかったが、驚く程の美味はこれに極まったようだ。元気になる。

清潔な新幹線、高雄での「蓮池潭」「澄清湖」の美景、オランダ統治下の建造物「赤嵌楼」、「孔子廟」。台湾一の風光明媚な「日月潭」や「玄奘寺」、半ばレジャーランド化した「九族文化村」には少々失望したりして、風景を愛で歴史や文化に感慨を催しつつ、陶器の街鶯歌の品々、沢山の店がひしめき活気ある「士林夜市」等目を楽しませながら台北に戻る。ホテルに皆を待っていたのは、蔡先生からのプレゼント。高級なパイナップルのケーキの箱の紐に金色のパイナップルのミニ飾りが

このあと、期待の故宫博物館を見学。引率された少年少女たちでどの部屋もあふれ、賑やかである。その隙を縫うように、ガイドの周氏は至宝中の至宝の前に導いて説明してくれた。戦乱つづきで幾つもの王朝が交代した中国において、よくぞ損なわれなかったと思われるものばかり。このような歴代の至宝名品の数々を一日や二日で見てもわるのは不可能とて、諦めて出



代表に書を手渡す菊田翠谷参事

清涼な新幹線、高雄での「蓮池潭」「澄清湖」の美景、オランダ統治下の建造物「赤嵌楼」、「孔子廟」。台湾一の風光明媚な「日月潭」や「玄奘寺」、半ばレジャーランド化した「九族文化村」には少々失望したりして、風景を愛で歴史や文化に感慨を催しつつ、陶器の街鶯歌の品々、沢山の店がひしめき活気ある「士林夜市」等目を楽しませながら台北に戻る。ホテルに皆を待っていたのは、蔡先生からのプレゼント。高級なパイナップルのケーキの箱の紐に金色のパイナップルのミニ飾りが

清涼な新幹線、高雄での「蓮池潭」「澄清湖」の美景、オランダ統治下の建造物「赤嵌楼」、「孔子廟」。台湾一の風光明媚な「日月潭」や「玄奘寺」、半ばレジャーランド化した「九族文化村」には少々失望したりして、風景を愛で歴史や文化に感慨を催しつつ、陶器の街鶯歌の品々、沢山の店がひしめき活気ある「士林夜市」等目を楽しませながら台北に戻る。ホテルに皆を待っていたのは、蔡先生からのプレゼント。高級なパイナップルのケーキの箱の紐に金色のパイナップルのミニ飾りが

清涼な新幹線、高雄での「蓮池潭」「澄清湖」の美景、オランダ統治下の建造物「赤嵌楼」、「孔子廟」。台湾一の風光明媚な「日月潭」や「玄奘寺」、半ばレジャーランド化した「九族文化村」には少々失望したりして、風景を愛で歴史や文化に感慨を催しつつ、陶器の街鶯歌の品々、沢山の店がひしめき活気ある「士林夜市」等目を楽しませながら台北に戻る。ホテルに皆を待っていたのは、蔡先生からのプレゼント。高級なパイナップルのケーキの箱の紐に金色のパイナップルのミニ飾りが



日月潭スケッチ (画・絵画部 伊達亮子)

富士山より高い玉山(旧新高山)を望むことはできなかったが、街中の看板の正漢字は懐かしい古人に会った思い。異国にいるのに終始安らかに過ごせたのは何であつたらうか。

### 台湾で詠める三首

文芸部 (短歌) 菊地栄子  
二百億余の義援金寄せきし台湾の人にむかいて言葉拙き  
日本語の漢字も歌も残れるがわが胸痛む罪科のごとく  
仏教と道教まじえ民族に深くどまる信仰心は

台湾歌壇との交流

# 定まらぬ筆の秀に 恐れ戦きつつ

菊田 翠谷  
(書道部・参事)

文化勲章ご受賞の小田滋先生に背を押されなさったとて逸早く参加を決められていた原田夏子先生。自分とは言えば説明会四日前の駆け込み参加。そこで頂戴した台湾歌壇の方々の、遙かな「祖国」の東日本大震災に寄せる悲しみと悼み。一流の民と讃えて復興をと祈る熱き心の歌の数々。

困難の地震と津波に襲はるる祖国護れと若人励ます  
蔡焜燦

この先の長き苦難の道の辺に咲く四季の花やさしくあれかし  
黄教子

かほどまでにと心震え、原田先生に差し上げる封書の裏面に、投函寸前揮毫持参のこと認めたのがそもそのこと。

昭和八年（一九三三）三月三日、大津浪三陸地方を襲う。死者一、六一六人。時に三歳三カ月。所は本吉大谷海岸。祖母に縋って逃げる際に踏んだ釘痕を今に留める土踏まず。後年退避先に建てた生家は今回基礎を残すのみ。我が家は半壊。これを用いよとか、端なくも現れ出た「中華民國元年」の銘ある記念墨。造墨一九一二年。奇しくも今年建国百年。迷わず用いるも、



菊田参事が揮毫した蔡焜燦代表の歌

想定外の墨の洩れよう。用意した数種の紙を活かす時の乏しきを憾み、差し上げることの忸怩たる思いの中で、ままならぬ筆を運ぶ。

石巻の大地震と津波独り居の卒寿の師母は如何にぞと聞く  
林蘇綿

荒れ狂う津波に退避報道す大和女の勲雄雄しき  
李錦上

同胞、「ますらおぶり」今に紡ぐや。力自ずと沸きくる心地。心から敬意と感謝を捧げたい。

【註】菊田翠谷参事は、東日本大震災を案じて詠まれた「台湾歌壇」の歌に感動し、五十二首を揮毫。研修旅行の際に持参して台湾の歌人に贈呈されました（第六面参照）。

吉田 利弘  
(絵画部・副主任)

# 今年は神戸で絵画展

兵庫県洋画団体  
協議会との交流

「：同じ被災県の画家仲間として、連携のエールを交換したいと考えるところです。」

このような趣意書を会場の入口に掲げて開催された交流展。

きっかけは、昨年一月に、兵庫県洋画団体協議会（二十二の絵画団体により構成・代表吉見敏治氏）が東日本大震災の被災地支援色紙展を仙台で開催したところから始まる。この縁により、本年一月四日から十日まで七日間に亘って、神戸市にある兵庫県立美術館王子分館の原田の森ギャラリーに、それぞれの作家の震災復興への思いをこめた作品、本会絵画部より二十六点、兵庫県から七十点が展示された。

期間中、早坂貞彦理事長、大場尚文常任理事、桜井忠彦絵画部主任と私の四名が表敬訪問した。訪れた展示会場は多くの来館者で賑わいをみせており、複数のマスコミの取材もあったとのことだった。帰りの飛行機を待つ桜井主任に、NHK神戸放送局から問合せの電話が入るなど、地元の関心の高さが推し量られた。

同時に開催された交流会には八十人を超える参加者があり、

来賓の挨拶の中に、同じ震災を体験した者同士の芸術の交流こそ心の復興に結びつくことが異口同音に発せられ、改めて芸術の価値について確認し合うことができました。

ちなみに、情報交換の中で、阪神淡路大震災の復興の過程においてライフラインの復旧と同時に、被災した県立美術館に代わって新たな美術館が早急に建設されたこと、知事部局の中に「県民文化局芸術文化課」が設けられており、県を挙げて芸術の復興に務めていることなど、特筆すべき話題が提供された。

なお、今年も交流展と併設して展示された六十八点の色紙が、一月十七日に気仙沼市面瀬地区の仮設住宅に兵庫県の代表者により届けられた。



展示会場での交流風景



# カメイ美術館との共催作品展

## 「自律の様相」テーマに開催中

当協会は、昨年開催したカメイ美術館共催作品展、宮城県芸術協会絵画部門現審査委員にみる「継承する力」に続く第二期として、本年は「自律の様相」をテーマに当協会会員の作品展を二月二十九日から仙台市青葉区五橋にある同美術館で開催している。

本展には、現在の芸術祭絵画展の審査委員を務める昭和十二年〜二十三年生まれの会員で、

現在協会役員を務める会員から近年の受賞者まで三十一名の会員の作品が出品されている。会期は三月十日まで。

なお、会期中の二月九日(土)には午後二時より、出品者によるギャラリートークが開催される。予約は不要で、入館料のみで誰でも参加できる。

問い合わせはカメイ美術館 (〇二二-二六四-六五四三) まで。

### 事務局 日誌

#### 会務報告

12・10 理事会  
○公益社団法人移行に伴う細則の制定について

○来年度の予算編成方針について

#### 後援

☆第5回河北新報「小・中学生紙上書道展」

12月中旬

河北新報朝刊紙上

☆第41回宮城教育大学マンドリン部定期演奏会

12月8日

仙台市青年文化センター

☆第30回白土会展

2月22日〜27日

せんだいメディアアテーク

☆第24回いずみ絵画協会展

2月28日〜3月4日

イズミティ21

☆「ありがとうの詩を書こう」展

3月5日〜17日

東北電力グリーンプラザ

☆尾形澄神近作小品展「ふるさとを謳う」

3月16日〜24日

書ギャラリー親かめ子かめ

☆第3回創清研究会書展

3月22日〜27日

せんだいメディアアテーク

☆第72回春のいけばな展

3月23日〜26日

せんだいメディアアテーク

☆第8回ALL NIPPON D.A.T.E

クラシックバレエコンペティションMIYAGI

4月1日〜3日

仙台市青年文化センター

☆第76回河北美術展

4月26日〜5月7日

藤崎本館7階催事場・8階グリーンルーム

☆新藤典子パイプオルガンの調べ

5月8日

仙台青葉荘教会

☆生田流箏曲演奏会

5月11日

電力ホール

☆第36回白亜会東北支部展

5月24日〜29日

せんだいメディアアテーク

☆龍生派いけばな野外展〜ありが

とうろみやぎ

7月19日〜21日

仙台市榴岡公園

会員の入賞・入選など

◇第37回新芸術展

〈洋画〉▽新芸術協会賞▽飯野哲雄▽日本画財賞▽菅野瑛子

▽理事推挙▽飯野哲雄

◇第44回日展入選

〈日本画〉天笠慶子

〈洋画〉佐藤幸子、原秀一、石川浩、吾妻篤、佐藤みえ子、関根光次、志賀一男

◇第80回記念独立展入選

〈洋画〉谷地森真理子、町田美野、帆苺清治、数本奈智子、人見計子、安達秀子、山形牧子、兵藤洋子、兵藤由紀子、菊地義彦、本田崇、目黒喜三郎、大阪祥春、三浦一博

◇宮城県短歌賞

▽次席▽大和昭彦▽秀逸▽高橋美枝子▽佳作▽上林節江、佐野督郎

### 受贈書

宮城の現代詩と宮城県詩人会  
今は昔仙台明石屋物語(渡辺仁子)  
歌集しをりひも(寺島弘子)  
句集浮水(鈴木八洲彦)

謹 弔

文芸部 (短歌)

斎藤公殿

11月16日

絵画部 (洋画)

小田島昌弘殿

11月16日

## けやきの譜

大震災から3年目の2013年は、穏やかに明けた。歳末の総選挙では自民党が圧勝したが、安倍新政権は、震災復興も含めた公共事業投資を強める方針だ。国債、借入金などの国の借金は976兆円で、国民一人当たり765万円に上る。この借金が膨らむことのないよう、願いたいものだが、外交も厳しい。米国のオバマ大統領再選に続いて2月には韓国、3月には中国の新リーダーが正式に就任する。尖閣諸島、竹島をめぐる日中、日韓の確執が一層厳しさを増すことは必至。政冷経熱が一時、盛んに叫ばれた。わが国は政治と文化・経済に一線が画されているが、中国や韓国は一枚岩。文化やスポーツ分野も政治に左右されることは、モスクワ五輪ボイコットなどが証明しており、韓国は日本との文化交流を次々断ってきている。宮城県芸術協会と韓国・大邱市との文化交流は今年、宮城県側が訪問する番。予定に影響がなければ、と願うばかりだ。(恂)